

学 校 名	江戸川区立上一色中学校
コーディネーター数	1人
ボランティア数	6人

□ 活動の概要

本校では、学習支援や部活動支援、図書館整備などに協力をいただいている。人数は多いわけではないが、それぞれが学校の中では重要な役割になってきている。平成23年に図書室の改装を機に読書通帳を導入した。また、これが文部科学省の推進事業となりボランティアの力も借りることになった。

<新しい図書室とボランティアの関わり>

読書部との共同運営

昼休みの通常の本の貸し出しは、図書委員会が実施している。読書推進のため放課後の開室を希望する声もあったが、部活動との兼ね合いもあり、ボランティアにお願いすることになった。また、その頃読書部が新設され、おもに放課後の活動で協力して運営している。季節感を反映した装飾も展示され、居心地のよい図書室になっている。



図書室に入ってすぐのところは、いろいろ装飾されて入りやすくなっている。



おすすめの本を机に置いて紹介している。

□ コーディネーターの役割

学校支援活動の内容について学校（校長・副校長）と打ち合わせを行い、学校のニーズやボランティアとの事業内容の把握・理解に努めている。また、活動をより充実するためにボランティアの募集を行っている。

□ 活動上の工夫や配慮等

- ・学校の要望を元に支援を検討していく。
- ・コーディネーターは固定し、継続的に関わる。
- ・ボランティアは自校の募集だけでなく、区からの情報も参考にする。

□ 活動の成果や感想（実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など）

今年度東京都から、学校教育活動支援部門で感謝状をいただく。コツコツと継続したことが認められ今後もより充実させていく。

- ・ブックトークをする時もあるが、図書室が居心地のよい空間でありたい。自分たちの季節の装飾では限界もあり、ボランティアさんのアイディアに助かっている。（読書部）
- ・一緒に作業する中で、本が十分でなかった時代の話を聞き、本を読むことを大切にしようと感じている。本を読むことで視野も広がり、もっともっとみんなに本を読んでもらうようにしていきたい。（読書部）
- ・放課後の開室が楽しみ。本を紹介する「としょの木」を見て読む本を参考にすることがある。（一般生徒）
- ・生徒と一緒に活動させていただいている。読書の楽しさ、居心地のいい図書室になるようお手伝いできればと心がけてさせている。（ボランティア）